

第4号 移植作業編

庄内総合支庁 農業技術普及課

Tel. 0235-64-2103

苗を徒長させない温度・水管理を！
移植は天気の良い日を選んで！

連休中は気温は平年並ですが、数日の周期で変わる見込みです（気象庁1ヶ月予報）。
こまめに天気予報をチェックして、天気に合わせた管理を徹底しましょう。

1 育苗後半のポイント ～天候にあわせた管理の徹底を～

- (温度管理) 緑化期以降の目安：日中 20～25℃、夜間 8℃以上
育苗ハウス内の温度は晴天で急激に上昇するので、注意する。
移植1週間前からは昼夜ともにハウスを開け、外気温に慣らす。
- (水管理) 灌水は床土や苗の乾き具合を見て判断し、根張りの良い苗にする。
床土が白く乾いたり、葉が巻き始めたら十分に灌水する。
晴天の日は、午前中の早い時間にたっぷり水をかける。

2 移植時のポイント ～適期移植ときめ細かい水管理で活着促進を～

(移植時期) 収量・品質・食味を安定させる移植適期：5月10～20日頃

移植時期が遅れると、穂数が減少
⇒収量が減少する場合が多い
(右図参照)。

(天候) 風が弱い温暖な日に行う。
低温や強風下での移植は、植え痛み
⇒活着不良を招く。

(栽植密度) 植込本数は 100 本/m² 程度
(70 株/坪、植込本数 4～5 本/株)
を基本とする。

※極端な疎植

- ⇒ 茎数・穂数の不足による収量低下
- ・ 1穂粒数過多による登熟不良
- ・ 玄米粗タンパク質含有率の上昇 などにつながる。

(植付け深) 3cm 程度
※深植え⇒分けつを抑制し、初期生育の停滞を招く。

(移植後の水管理)

- ・ 移植後は、活着するまで水深 4～5 cm 程度に湛水する。【苗の保護、新根の発生促進】
- ・ 活着後は、水深 2～3 cm の浅水管理とし、地水温を高める。 } 【分けつの発生促進】
また、日中止水・夜間入水とする。
- ・ 強風や低温が続くときは、やや深めの水深 (4～5 cm 程度) とする。【苗の保護】
- ・ 除草剤散布後は 7 日間止水し、落水・かけ流しはしない。【防除効果促進、薬剤の流出防止】

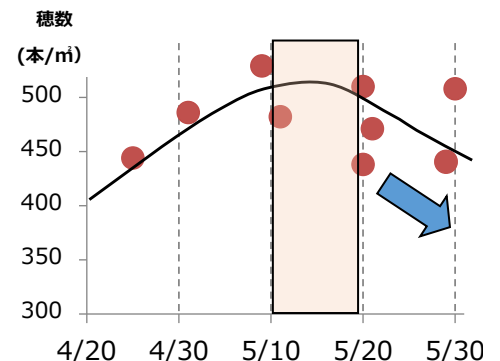


図 1 つや姫の移植時期と穂数の関係
(水田農業研究所 2007～2009年)

＜春季農作業事故防止強化期間4/1～6/10＞

☆まずはワンチェック ワンアクションで農作業安全☆

STOP! 農作業事故